長寿命化改良事業計画書(記入例)

					中心以及争	**************************************	(HO) (I)	•/				
設置		OO市		都道府県名	沖縄県	都道府県		47	事業年度	R 8	~ R	
学校名		口口小学校		学級数	××		児童	生徒数	DO 000	00	- H + D M	
±⊥ ian 2	⇒ #/m				建築年度	築年数 交付決定年度			RC - SRC -	CB造のみ平均	习値を回答	
計画建物区分		棟番号	構造	階数	(記載例:R1) ※半角英数字	末時点 ※自動	延	床面積	コンクリート	中性化	/. *·!/=-	
						入力			圧縮強度	深さ	かぶり厚さ	
校和	舎	0-1	R	3–1	S53	48	3,	000㎡	24. ON/mm2	1. Ocm	3. 0cm	
校和	舎	O-2	R	3	S50	51	2,	000㎡	21. ON/mm2	1. 2cm	3. 2cm	
校和	舎	Δ-1	S	2	Н3	35	1,	000㎡				
校和	舎	Δ-2	W	1	H5	33	5	00 m²				
条件	確認	長寿命化改良事業		良事業対象		体ナス三秒		000m² 500m²	建物全体に	長寿命化改	良事業適用可	
									tRC造とS造	両方に記載)	
	F DC	【必ず実施する工事】 該当する構造の実施する工事内容を記載する。(例:RC+Sの場合はRC造とS造両方に記載)										
Ø	Įĸc	・08造】 (どれか1つ以上) 具体的な工事内容										
	a.	コンクリートの中性化対策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									のト 吐业形装	
Ø	b.	鉄筋の腐食対策 層達材で仕上げる。								の工、Iの小形核		
	C.	鉄筋のかぶり厚さの確保										
Ø		[S造] (どちらか1つ以上) 具体的な工事内容										
Ø	a.	鉄骨の腐食対策	状態が良いため全面的な補修は行わず、外部に面した鉄骨部分のさびを除去し、 さび止め塗料を塗布。									
	b.	接合部の破損の補										
Ø		【W造】 (必ず実施	具体的な工事内容									
\square	a.	構造体の腐朽対策(土台・柱・梁等)				土台部分の腐朽対策として防腐剤を塗布。						
【ラ	「更新済みの場合や、計画的に更新することが決まっている場合は実施しなくても良い。					具体的な工事内容・実施しない理由						
\square	a.	ライフラインの更	上下水配管の更新。電気幹線ケーブルの更新。									
□ b. 実施しない 「原則ト」の中がナファ南 Wのトナファ南に ■ たろ b 2												
【原則として実施する工事】 当てはまる工事に ▼を入れる。												
	1	原則とし	具体的な工事内容・実施しない理由									
Ø	a.	耐久性に優れた材	外壁を防水形複層塗材で仕上げる。									
	b.	維持管理や設備更新の容易性の確保 型込配管から露出配管への切替えを実施。										
	C.	少人数指導など多様な学習内容・学習形態による活 動が可能となる環境の提供 現状で多様な学習形態に対応できているため、特に実施しない。										
Ø	d.	断熱、二重サッシ	、日射遮	蔽等の省エス	ネルギー対策	内断熱、複層	ガラス()	†側Low−Eガラ	ス)で機密性を	高めて空調効	n率を上げる。	
確認		チェックリスト(当てはまるか確認し、✓を入れる)										
	1.	長寿命化改良事業対象建物は、交付決定年度において建築後40年以上経過する。										
Ø	2.	事前調査を実施した結果、長期的に使うことが適切と判断でき、改修後30年以上使用する予定である。										
	3.	耐震性能が確保されている。もしくは、本工事と併せて耐震補強を実施する。										
	4.	一棟全体の全面的な改修工事である。										
2	5.	長寿命化改良事業対象建物のみの整備である。もしくは、一体と成す建物があるが、対象建物より小さい面積である。										
その他特記事項 内壁に一部コンクリートブロックを使用している箇所があるが、補強がされておらず危険なため、撤去する。												
7年に ローナノノ 「フロックと以前してv-の両所ののなか、間違のでれておりが心腔性はため、概式する。												
連絡担当者												
(氏名・所属・TFI・F-mail 文科太郎・○○市教育委員会△△課												
		等)		00-0000-0000 · XXXXXXXX@mext.go.jp								

長寿命化改良事業計画書・中長期修繕計画 記入要領

く共通事項>

- 長寿命化改良事業計画書→中長期修繕計画の順番で記入する。
- 水色に着色されたセルを入力する。(グレー着色セルは自動入力)
- 自動入力のため、1 校 1 ファイルで作成すること。(シートをコピーしないこと。)
- 原則、赤字がなくなるように入力すること。特別な事情がある場合は、「その他特記事項」欄や「その他・備考」欄に理由を記入すること。

<長寿命化改良事業計画書>

○ 事業計画書の作成に当たっては、平成 26 年 1 月に公表した『学校施設の長寿命化改修の手引』を 参考にすること。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/027/toushin/1343009.htm

○ 劣化状況調査に当たっては『学校施設の長寿命化改修に係る劣化状況調査の手引き』を参考にすること。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1334433.htm

- ○「設置者名」欄には、「○○市」等と記入し、「○○市教育委員会」等と記入しないこと。
- 〇「事業年度」欄は、事業年度が複数年にわたる場合は期間を記入する。単年度の場合は、O列(左側)にのみ事業年度を記入する。
- 〇「学校名」欄は、計画後の学校名を記入する(仮称でも構わない)。「〇〇市立」等の記載は不要。
- 〇 「学級数」、「児童生徒数」欄は、事業開始年度の5月1日現在のものを記入する。
- ○「計画建物区分」〜「かぶり厚さ」欄(7〜21 行目)は、対象建物及び対象建物と一体を成す建物について、<u>計画前のものを記入する。</u>(減築を実施する場合、減築前のものを記入することとなる) ※長寿命化改良事業を実施する建物のみ記入すること。
- ○「計画建物区分」欄は、校舎、屋内運動場、寄宿舎、園舎のいずれかを記入する。
- ○「構造」欄は、構造について鉄筋コンクリート造は R、鉄骨造は S、木造は W、鉄骨鉄筋コンクリート 造は SRC、補強コンクリートブロック造は CB を記入する。
- 階数について「(地上階数)ー(地下階数)」の形で記入する。 例)鉄筋コンクリート造の地上3階、地下1階の場合: 3-1
- 〇「建築年度」欄は、当該建物の建築年度を半角英数字で記入する。 例)R1 (R元、令和元年度等と入力しないこと。)
- (鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造のみ)「コンクリート圧縮 強度」「中性化深さ」「かぶり厚さ」については全て記入する。調査中の場合は調査が完了してから提 出すること。
- ○「コンクリート圧縮強度」欄は、コンクリート圧縮強度試験により評価したコンクリート圧縮強度の平均値(単位 N/mm²)を記載する。調査方法は、耐力度調査の方法を参考とする。13.5N/mm²以下の場合、基本的に改修には適さないため、専門家等の意見も踏まえながら総合的に検討を行い判断した結果として、長寿命化改修を行うということであれば、「その他特記事項」欄にその旨記載すること。(鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造のみ)

- ○「中性化深さ」欄は、コンクリート中性化深さの平均値(単位 cm)を記入する。調査方法は、耐力度 調査の方法を参考とする。(鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造 のみ)
- ○「かぶり厚さ」欄は、鉄筋かぶり厚さの平均値(単位 cm)を記入する。調査方法は、耐力度調査の 方法を参考とする。(鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造のみ)
- 〇「条件確認」欄では、長寿命化改良事業の条件を満たす建物と同時併行で築 40 年以上経過していない建物及び劣化状況等調査を実施していない建物について長寿命化工事を実施する場合、7~21 行目に記載の工事実施面積全体を長寿命化改良事業の対象とできるか適用の可否が自動入力される。

なお、「計画建物区分」~「延床面積」欄及び(鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造のみ)「コンクリート強度」「中性化深さ」「かぶり厚さ」欄に一つでも未入力がある場合、正確に判定されないため、「建物全体への長寿命化改良事業適用不可」となっていないか確認すること。

- ○【必ず実施する工事】は、構造区部に応じて以下のアルファベットの項目をそれぞれ記入する。
 - ①鉄筋コンクリート造及び補強コンクリートブロック造の場合
 - a コンクリートの中性化対策
 - b 鉄筋の腐食対策
 - c 鉄筋のかぶり厚さの確保
 - ②鉄骨造の場合
 - a 鉄骨の腐食対策
 - b 接合部の破損の補修
 - ③木造の場合
 - a 構造体の腐食対策(土台、柱、梁等)
 - ※鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、上記①及び②の項目に記入する。
- ○【必ず実施する工事】【ライフライン】「a.ライフラインの更新」欄は、ライフラインの劣化対策への対応を 記載する。なお、既に更新済みの場合や、将来、計画的に更新することが決まっている場合は、「b.実 施しない」にその旨を記入する。
 - 例)上下水配管の更新。電気幹線ケーブルの更新。
- 〇【原則として実施する工事】「a.耐久性に優れた材料等への取り替え」欄は、塗装、防水、外装材など の材料について、具体的に記入する。ただし、工事を行う必要がない場合はその理由を記入する。 例)外壁塗装については防水型弾性吹付タイルを採用。屋上防水は高耐久仕様の防水材を採用。外
 - 部の鉄部については耐候性塗料を採用。屋外の分電盤はステンレス製を採用。
- 〇【原則として実施する工事】「b.維持管理や設備更新の容易性の確保」欄は、点検スペースの確保や 設備更新の容易性確保への対応を記載する。ただし、工事を行う必要がない場合はその理由を記入 する。
 - 例) 埋込配管から露出配管への切替えを実施。各階にパイプスペースを設置。設備更新や点検を想定して点検口を適正配置。
- 〇【原則として実施する工事】「c.少人数指導など多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる環境の提供」欄は、多様な学習内容等に関する対応を記載する。ただし、工事を行う必要がない場合はその理由を記入する。
 - 例)教室と廊下の間の間仕切壁を撤去し、新しい教育形態に対応できるオープンプランに変更。図書室、コンピュータ室を統合し、メディアセンターとして学校の中心に配置。 将来のプラン変更に対応できるように、非耐力壁やコンクリートブロックの壁については、撤去して軽量鉄骨下地の壁に変更した。
- 〇【原則として実施する工事】「d.断熱、二重サッシ、日射遮蔽等の省エネルギー対策」欄は、省エネルギー化に関する対応を記載する。ただし、工事を行う必要がない場合はその理由を記入する。
 - 例)外壁の断熱化。複層ガラスの採用。高効率照明器具への更新。庇の新設による日射遮蔽の実施。自然換気システムの導入。

- 〇「その他特記事項」欄は、記載要領に則って記載できない場合の理由を記載する他、バリアフリー化 対策、防災対策、転用が見込めない場合の減築等、長寿命化改良に伴って実施する工事の内容に ついて網羅的に記載する。
 - 例) ・バリアフリー化対策(段差解消、EVの設置、引き戸の設置)を実施。
 - ・災害時に避難所となることを踏まえ、多目的トイレ及び備蓄倉庫を整備。
 - ・トイレを湿式から乾式に変更し、和式便器は洋式便器に変更。
 - ・床、壁、天井等の内装仕上材に地域材を使用。
 - ・児童生徒数の減少に伴い、減築を実施(減築面積〇〇㎡)。
 - (※減築する場合は減築面積を記入すること)
- 〇「連絡担当者」欄は、文部科学省との連絡担当者の氏名、職名、電話番号、メールアドレス等を記入 する。
- 各事項とも所定欄で記述できない場合は、別途参考資料を添付することも可能とする。なお、対象 建物と一体を成す建物を長寿命化改良事業の対象とする場合、図面など外見上一続きであることが 分かる資料を添付すること。

<中長期修繕計画>

- 記入例を参考に、今後の改修や改築の実施時期等について記入する。
- 複数の棟をまとめて 1 枚の中長期修繕計画を作成する場合は、「中長期修繕計画(まとめ ver)」シートを用いて中長期修繕計画を作成し、棟によって中長期修繕計画が異なる場合は、「中長期修繕計画(個別 ver)」シートを用いて棟ごとに作成すること。
- グレー着色セルの自動入力箇所について確認し、入力内容に不備がある場合は長寿命化改良事業計画を必要に応じて修正すること。
- 表の一番下の行を最終年度として、今後30年以上使用することが分かるように記載すること。

本件連絡先•提出先

大臣官房文教施設企画·防災部施設助成課技術係 TEL 03-5253-4111(内線 2078)

E-mail technique@mext.go.jp